

21世紀を拓くビジネスリーダーの肖像
次代の旗手

一日50円で京都に茶畑が持てる。
記念日のギフトや海外にも、
日本のお茶をお届けします。

日50円で京都にお茶畑を持てるという仕組みです」

「それはかぶせ茶といいます。お茶の木に黒い覆いをかぶせて日光を遮って、新芽の光合成を抑えると、カテキンという渋味が少ないお茶になります」

「これがお茶なんですか!」
「これはかぶせ茶といいます。お茶の木に黒い覆いをかぶせて日光を遮って、新芽の光合成を抑えると、カテキンという渋味が少ないお茶になります」

「二煎目からは熱いお茶で淹れていいと思います。こちらは普通の煎茶の香ばしさが出ているかと思えます」

「同じお茶とは思えないくらい、その味わいの違いに感心しているところに出してくれたのが、おひたし。」
「お茶を食べるんですか!」



お茶の通販
茶畑オーナーシステム

京都おぶぶ茶苑
副代表

まつもと やすはる
松本 靖治

Profile

1974年生まれ。和東(わづか)茶、そして喜多をはじめ茶産地・和東に生き、茶に命をかける人々の情熱に感激し、おぶぶの立ち上げより参画。まだ知られていない、和東茶の魅力を世界に伝えるべく、文字どおり世界じゅうを駆けめぐる多忙な日々を送る。おぶぶの伝道師。日本茶インストラクター第7期。
(<http://www.obubu.com/>)

Yasuharu Matsumoto

「美味しいですよ」
にこやかな松本さんに促されて口に運ぶ。噛みしめると淡いお茶の香りが口中に広がる。

京都おぶぶ茶苑はお茶の生産・販売を一貫して行う。普通にお茶を買えるのだが、特徴的なのは茶畑のオーナーシステム。一ヶ月1500円で、1坪分のオーナーになってもらうシステム。ちょうど両手を広げた程度の広さで、およそ1.2キロ分くらいのお茶ができる。それを年6回、いろんな商品として送ってもらえるシステムだ。ほかに、自分の茶畑で収穫したことを証明したギフトを贈ることができる、茶摘み体験・農作業ができる、常に送料無料など、18の特典がある。去年の12月から始めて、すでにオーナーさんが202名(4月28日現在)。いい反響をいただいているとのこと。中には上場企業の社長もいる。もし満足行かなかつたら途中で止めるのも自由。

代表の喜多章浩さんがお茶作りの修業中、松本さんは東京でサラリーマンを続けながら、おぶぶ茶苑のサイトを担当していた。その時、おぶぶ茶苑がNHKの番組で取り上げられたところ注文が殺到。8時間で100万円を売り上げた。お茶にかけてみようと思った瞬間だった。

「でも、急激に売れるより、細々でもいいから、永くお付き合いさせていただけのほうがいいです。」

「『おじいちゃん代から、茶畑のオーナーです』が、僕たちの夢ですね」